

匝瑳探訪

①

浜と岡

1月23日に匝瑳市が誕生しました。今月号から「匝瑳探訪」と題し、地域の歴史や伝統行事を紹介します。

旭市刑部（ぎょうぶ）岬から夷隅郡岬町の大東（だいとう）岬まで約60km続く砂浜を「九里浜」といいます。いわれに

ついではいくつかの説があり、もつとも知られているのが、源頼朝の命令で1里ごとに矢を立てたところ99本（99里）立てられたという伝説で、旭市矢指（やさし）などはそれにちなむ地名とされます。九十九里浜の海岸線は遠州灘（静岡県）に次いで2番目の長さです。

匝瑳市内の地図をながめると、

旧八日市場地域に吉崎と吉崎浜、長谷と長谷浜、旧野栄地域に東から野手地域に内裏塚（だいらづか）浜、八軒浜、西浜、

今泉と今泉浜、新堀（にいほり）と新堀浜、川辺と川辺浜、堀川と堀川浜、栢田と栢田浜というように地区内に岡集落と浜集落があることに気付きます。

なぜ、このように分かれて集落ができたのでしょうか。

935年ごろの記録によると、匝瑳郡18郷のなかに「野田郷」と「幡間（は

ま）郷」があり、これが当時の集落名といえるでしょう。野田郷は野手地区から吉崎方面にかけてをいい、幡間は浜に通じ海岸線のことです。新堀から木戸（光町）にかけてをさしているときえます。

現在の大字（おおあぎ・江戸時代の村）は、1600年前後の「村切り」によって成立したとされます。この時に村域が決まりますが、浜集落がいつごろ岡集落の村に組み込まれたのでしょうか。

そのなぞを解くかぎは漁業にあるようです。九十九里浜のイワシ漁は、16世紀半ばに紀州（和歌山県）からやってきた漁師が地引網を広めたのがはじまりとされます。

地域の村むらで地引網が盛んになったのは、豊漁などの記録とみられる1700年ごろからのようです。

1799年には東小笹、長谷、吉崎、野手、川辺、新堀、栢田、今泉、堀川村など10か村により地引網についての取決めがされました。しかし、網主をはじめ村びとは生活のためでもあり争いも絶えませんでした。

浜集落は、村むらの漁業権を優先させるために岡村に隣接され海岸線に形成されたのではないのでしょうか。



変遷をたどる海岸線（写真は平成10年撮影）